

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■117■

今年も暑い夏だった。

せつかく山の多い群馬県に住んでいられるのだから地の利を生かそうと、週末になると涼を求めて標高の高い地域に足を運んだ。その中で強く印象に残っているのは、嬭恋村の四阿山よあやま。日本百名山の一つで、その名の通りなだらかな稜線りょうせんが美しい。

長野県との県境にある鳥居峠から登ったが、登山口でも標高は1590mほどあるので空気はひんやり。登り始めれば汗が出るが、尾根を吹き抜ける風は涼しい。

登山道は急な箇所は少

涼求め嬭恋村へ

なく登りやすいので、運動不足でなまった体によくよい。高度が上がるとつれて、四阿山と浅間山に挟まれた嬭恋村の

農家の営みに驚き

姿が徐々に見えてくる。目を引くのは山裾に広がるキャベツ畑だ。

約2時間半かけてたどり着いた標高2354mの山頂からは嬭恋村の全景を見ることができ。山裾を開墾してつくられたキャベツ畑の広さに驚かされた。

嬭恋村のホームページ

によるとキャベツ畑の広さは約3千畝。東京ドーム640個に相当する広さだ。広大な土地を開墾し、土壌や水などを管理して畑を維持している農家の営みはすごい。

下山して車でキャベツ畑の近くを走ると、巨大なトラクターや外国人の若者たちが草刈りをして

穫されたキャベツを明日の朝までに消費地に届けるのだらう。日常生活でスーパーにキャベツが並んでいるのは当たり前だが、それを支えている方々にあらためて感謝したい。もう一つ、嬭恋村らしいさを感じたのは、郷土料理の「ころこ」だ。江戸時

選ばれている。村役場近くの食堂で揚げた「ころこ」を頂いた。しっとりした生地と、中に練

いる姿が見える。収穫作業は深夜3時ごろから始まるそうだ。夕方には畑に向かう何台もの大型トラックとすれ違った。収

代の嬭恋村では冷涼な気候でも育つジャガイモを栽培し、ジャガイモから取り出したでんぷんを片栗粉として販売し、現金

肥後秀明 (ひご・ひであき)

1969年生ま

れ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを歴任。2022年4月から現職。

